

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470101496		
法人名	特定医療法人 善昭会		
事業所名	グループホーム 菜の花(1F)		
所在地	大分県大分市東鶴崎3丁目1番6号		
自己評価作成日	令和4年2月19日	評価結果市町村受理日	令和4年5月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	令和4年3月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

閑静な住宅街に立地しており、周囲の環境に恵まれている。母体が医療機関であるため緊急時の対応が迅速に行なわれる。季節感のある行事を実施(ひな祭り、端午の節句、七夕、運動会、焼き芋等)また誕生日を月でまとめずに、個別でお祝いし大切な行事として捉えている。コロナ禍でも室内で楽しめるレクリエーションを行なっている。毎月、ご家族様や町内会に郵送及び、回覧している「菜の花便り」は面会の難しい時には、写真を主としてご家族様が入居者様の普段の様子を把握できると好評であった。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・母体が病院であり体調不良になったり治療が必要になった場合も住み替えの支援がスムーズに行われている。
 ・季節の行事や誕生日会も個々の生活に合った支援が行われ、楽しみの一つになっている。
 ・職員による手作りのおやつ等、温かみがあり日常的に生活感のある支援が行われている。
 ・毎月発行される『菜の花便り』は笑顔いっぱい入居者の姿が見られる。
 ・閑静な住宅街に立地しており、窓越しにのどかな町の様子や人通りを感じられる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域と共に、自然と共に、その人らしく」を理念として、さらにその実践に向けて細かく10項目の指針を掲げ、始業開始前に確認している。	ホールに掲示された理念を基に10項目の中から毎日1項目を指針に決めて支援に努めている。決定権を持ってもらい、個性を生かす様、管理者、リーダーが中心となり理念を大切にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	敬老会などの行事への参加。運営推進会議等で自治会長や民生委員と交流。近所の商店での買い物など。	コロナ禍で思う様に交流は出来ないが『菜の花だより』を地域に回覧板として回してもらうなど地域との繋がりを大切にしている。散歩や外出の際には近隣の方からの声掛けがあり、立ち話をする事もある。事務所自体が連携を支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「菜の花便り」の回覧を行い、施設の事を知ってもらい、自治会長を通じて施設の取り組みなどを発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染防止のため紙面での意見集約もあつたが、行政、自治会長、民生委員、家族の助言をサービスの質をあげるために活用している。	コロナ禍であり紙面や電話で意見や要望をもらう様にしている。今回は便りに写真を入れて欲しい等の要望があり、助言によって利用者本位にサービスの質の向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政への申請、連絡の時などにケアサービスの取り組みや相談などを行い、協力関係の構築に努めている。	コロナ禍であり、市、行政とはウェブ上で連絡を取り合うことが多い。認定更新の機会や管理者交代の時など、現状の話や意見を聞いたり連携を取っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	介護保険指定基準の禁止の対象となる具体的な行為を職員が理解し、身体拘束に代わる方法を十分に検討して拘束しない介護を目指している。	法人での研修や内部研修が行われている。月に1回リスク検討委員会を開き、基本的な事を守る様、また気付いた時に注意するなど常に気を配っている。スピーチロックにも注意し抑圧のない見守り支援を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者の権利擁護や身体拘束に関する研修への参加、定例会での勉強会を行い、入居者の状態を観察し見守りを強化する事で拘束しないケアの実践に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前に成年後見制度を利用している入居者がおられたことから勉強会を行い制度について学ぶ機会を設け、制度の理解を行なっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前は相談員や管理者が説明を行い、契約の締結、解約については十分な時間をかけて説明をし疑問、不安等に対しても相手が納得いくまで行なっている。改定等も同様。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、苦情相談箱を設置して直接話せない内容を把握したり、本人、家族からの要望をカンファレンスや定例会などで話しあい、可能な限り運営に反映させている。	コロナ禍で面会制限がある為、電話や『菜の花だより』による発信が主となっている。意見箱も設置されているが、利用される方はいない。何でも言える雰囲気作りに努めている。毎月の便りに担当者の言葉で様子を伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会や直接職員から意見及び、提案を受け業務の見直しや、ケアの負担軽減を考えた職場環境を作れるように努めている。	日々の関わりの中で意見を言える雰囲気作りに努めている。リスク委員会でも情報を取る様にしている。業務の見直しや提案などが発信しやすく、ミーティングが活用されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当、時間外手当の支給、有給休暇の取得がし易いように配慮したり、希望があれば講演会、研修会への参加や資格取得への支援をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外での研修や講演会への参加が出来るように努め、パソコンで様々な情報が得られ、スキルアップできるように進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県が主催している研修会への参加や、法人内のグループホームの見学や、職員の応援勤務などで交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者が会いに行き、その方の話を聞いたり家族や、相談員、介護スタッフに情報を得て、本人が安心できる環境を整える事ができるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学にきてもらい、施設の概要の説明をご家族の納得いくまで話をする。不安なこと、問題点、要望等の聞き取りをして、その都度、対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談員、計画作成担当者、管理者が情報を共有して可能な限り柔軟な対応をして、場合によっては他の事業所のサービスに繋げることも有る。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の好きな事、得意な事、今の体力で可能な事を見極めて、手伝ってもらったり教えてもらったりしながら共に暮らしているという認識がもてるように工夫している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の菜の花便りで、個別に担当職員が状況を報告する。また家族から連絡がある時など本人と話すようにアシストしたり、家族からの情報の大切さを伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、知人との関係を大切に維持できるように、電話、手紙などで関係の継続を心掛けている。	コロナ禍であり外出も馴染みの場や人との交流が出来ずにいるが、電話や年一回の年賀状をキーパーソン以外の関係の方にも出し、喜ばれている。継続支援としては『菜の花だより』が唯一となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれに応じた関係性が築けるように、入居者同士の関わり方を把握して、孤立したりトラブルに発展しそうな時は職員が間に入り、関係の改善や継続に気を配っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内の医療機関や介護施設の場合は、面会に行くなどして関係の継続に努めている。必要に応じて相談員に情報の提供など間接的にサポートしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	色々な場面で、本人の話や表情などから、希望や意向を把握して、困難な場合は家族より情報提供してもらい本人の希望、意向に近づけるようにしている。	日々の関わりの中で入居者同士の会話を聞きながら把握に努めている。意思の疎通が困難な方には、家族や関係者から情報を得る様にしている。それぞれの担当があり本人の希望、意向に近づける様努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人からの話、家族には細かい情報提供を入居者台帳に記入してもらい、入居前の生活歴、生活環境、以前、利用していたサービスの経過等の情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	経過記録にどんな些細なことであっても、本人の喜怒哀楽や健康状態など記録して、職員間で情報の共有を行い、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、かかりつけ医の意見をもとにして、本人の生活の質がより向上するように、アセスメントを行い意見や現状を総合して、ケアプランの作成を行っている。	日々の関わりの中で情報を基にアセスメントとモニタリングを繰り返している。本人の発言や日々の記録を元に、現状に合った介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は経過記録に個別に本人の言葉で記録し、普段と違う様子があれば申し送りで伝達し情報の共有を図りながら、計画の実践や見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況や家族の希望に配慮しながら、面会、外泊、法人外の医療機関の受診の付き添い等、柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行政、ボランティア、医療連携、民間等の地域資源を活用して、より快適に安全に生活が営めるようサポートしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望の医療機関の受診に関する情報提供、また、母体の医療機関を掛かりつけ医として往診をうけている。週に1度、訪問看護を受けている。	かかりつけ医として母体医療機関の往診を受けている。専門医受診の情報を共有し複数の医療機関とも連携が取れ、適切な医療を受けられる様支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度、訪問看護を受け常に本人の健康管理を行い、状態の変化があった場合は母体の医療機関との連携が速やかにとれる体制が確保されている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院によるADLの低下を極力防ぐため、医師や看護師、PT、と相談して施設で対応可能な段階で退院できる様アプローチしたり、入院の時にはリロケーションダメージを防ぐため食事、排泄等は施設での生活に近い形が取れるよう情報提供している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴う意見確認書を作成して、施設が対応し得るケアについて説明を行っている。状況に応じて再確認をしていく必要性があると思われる。	入居時に事業所方針を伝えている。重度化した場合の事業所で出来る事を説明している。協力支援により暮らしを継続出来ている。法人内の施設への住み替えも出来る為安心感がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの設置をしており、日勤帯、夜勤帯、土日、祝日など緊急対応についてマニュアルを整備して周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施し、避難経路、避難場所の確認、スプリンクラー消火器の使い方等の訓練を行っている。地域の協力体制は自治会長、民生委員に訓練に参加してもらい、消防団に入居状態を知らせている。	火災、水害、夜間想定などのマニュアルが作成されている。今月は消防に連絡し火災報知器を鳴らすなどの災害訓練を実施。年二回避難訓練も行っている。地域の協力体制も整っており、備蓄も一週間分あり法人内の病院が地域の避難所になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の関わり方をリーダーが、点検し対応や発言での気づきを指導して本人のプライド、プライバシーに配慮している。	プライバシーや尊厳を大切にしている。声掛けも家族、本人が希望される呼び方に行っている。接遇研修は年二回法人で一緒に行われており、本人の気持ちを考えさりげないケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	些細なことでも本人が決定する様に促し、複数の選択肢の提案をして本人の希望を優先している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の本人の状態や思いに配慮しながら柔軟に対応し、出来るだけ個別性のある支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みに応じた支援を行うよう努め、自己決定が難しい方には、本人の気持ちに副った支援を心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	運搬食のため調理を一緒にする機会はすくないが、配膳や片付けを共にして、同じテーブルを囲んで家庭的な雰囲気のもと食事ができるようにしている。	食事は母体で作られ、職員も同じテーブルで同じ物を食べ、おやつも手作りにしている。誕生日にはケーキを囲み雰囲気作りを大切にしている。食事前には全員で口の体操をし、飲み込みやすい様気配りもしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による献立の作成。食事摂取量や水分量を把握して、摂取量が減少の場合は、食事形態や栄養補助食品を検討し、本人の好物の提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨きの声掛け、介助をしている。歯科医による定期健診を行い、月に一度、歯科衛生士による勉強会を実施して口腔内の清潔保持のスキルアップに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンの把握をして、トイレへの声掛けや介助を行い、1日1回はトイレに座ることを実施している。	オムツを使う利用者も、日中は声掛けによりトイレでの排泄を基本に支援している。自尊心に配慮して利用者の動きや様子で声掛けや誘導をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材や乳製品、水分をより多く摂れるように緑茶だけでなく、数種類準備している。身体を動かす機会を設けて、自然に排便が出来るよう予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴はゆっくり落ち着いて楽しんでもらえる様に時間をとり、2日に一度の入浴としている。介助が必要な方用の簡易リフト、入浴介助用の車椅子など安全にも努めている。	入浴を楽しんでもらう為、2日に1度の入浴を基本として、介助が必要な方には簡易リフト、入浴介助用の車椅子を使い安心安全に入れる工夫をしている。要望で毎日入る事も可能。一人ひとりの気持ちに寄り添い支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	できる限り日中の活動を促して睡眠のリズムを整え、体調や表情などで昼寝を勧めたり、身体の疲れが1日を通して、解消できるように夜間は空調、照明、音などに考慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のリストを全職員が把握出来るようにしている。受診、往診の際に薬の変更があった場合、本人に症状の変化があれば記録して、医療機関へ報告を行い指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	何気ない会話の中より、本人の好む事を導きだして、得意な分野で張り合いや喜びを感じられるように、役割や楽しみごとを提供して暮らしの質を高められるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染防止のため戸外に出かける(遠方)事は困難であったが、感染者数が減少した時期に施設の周辺を散歩したり、年末はPCR検査を条件として、本人、家族の希望で外泊する入居者もおられた。	コロナ禍の為近場の人通りの少ない時間帯に限られるが近所のお茶屋さんや施設の周囲を選んで散歩し、外気にふれている。桜の季節には近場の土手に桜を見に行く予定もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額のお金を自分で管理している方もおられ、希望されれば最寄りのコンビニに買い物に出かける。(今は職員が行っている。)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば家族に電話をかけたり、家族からの電話を取り次いだりしている。手紙を書いたり、読んだりするのが困難な方は、希望に応じ手伝っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同の空間は清潔に保ち、家庭的な雰囲気大切にしている。場所が認識出来ない方のため、トイレ、風呂場、居室出入口に案内の表札を掲げ混乱を防いでいる。	共用空間には食卓やソファが置かれ、自宅のリビングを感じる工夫がされている。明るい陽が差し込み、温かさを感じる。テレビから流れる音と外との音が日常をゆったりと過ごせる場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関にベンチを置いたり、テレビの好きな方は静かに観れるよう近い位置に席を設けたり、窓側のソファは仲の良い人同士でくつろいだり、おしゃべりを楽しんだり出来るように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具やタンスはなるべく自宅で使用していた物を持ち込んでいただき、使いかっの良さ、安心感を感じてもらえる様工夫している。	自宅にいる様にソファや仏壇も置かれ写真や手芸の作品が飾られ、落ち着いた雰囲気自室となっている。居心地良く過ごせる工夫が見られる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	何がわからないのか、何が出来ないのかどの様にしたら本人の力でやってもらえるかを追及して環境整備につとめている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470101496		
法人名	特定医療法人 善昭会		
事業所名	グループホーム 菜の花(2F)		
所在地	大分県大分市東鶴崎3丁目1番6号		
自己評価作成日	令和4年2月19日	評価結果市町村受理日	令和4年5月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおい		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	令和4年3月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

閑静な住宅街に立地しており、周囲の環境に恵まれている。母体が医療機関であるため緊急時の対応が迅速に行なわれる。季節感のある行事を実施(ひな祭り、端午の節句、七夕、運動会、焼き芋等)また誕生日を月でまとめずに、個別でお祝いし大切な行事として捉えている。コロナ禍でも室内で楽しめるレクリエーションを行なっている。毎月、ご家族様や町内会に郵送及び、回覧している「菜の花便り」は面会の難しい時には、写真を主としてご家族様が入居者様の普段の様子を把握できると好評であった。2階であるため日当たり良好でとても明るい、雰囲気をかもし出している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【グループホーム菜の花 1Fに記載】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域と共に、自然と共に、その人らしく」を理念として、さらにその実践に向けて細かく10項目の指針を掲げ、始業開始前に確認している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	敬老会などの行事への参加。運営推進会議等で自治会長や民生委員と交流。近所の商店での買い物など。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「菜の花便り」の回覧を行い、施設の事を知ってもらい、自治会長を通じて施設の取り組みなどを発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染防止のため紙面での意見集約もあったが、行政、自治会長、民生委員、家族の助言をサービスの質を上げるために活用している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政への申請、連絡の時などにケアサービスの取り組みや相談などを行い、協力関係の構築に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	介護保険指定基準の禁止の対象となる具体的な行為を職員が理解し、身体拘束に代わる方法を十分に検討して拘束しない介護を目指している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者の権利擁護や身体拘束に関する研修への参加、定例会での勉強会を行い、入居者の状態を観察し見守りを強化する事で拘束しないケアの実践に努めている。		

事業者名:グループホーム 菜の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前に成年後見制度を利用している入居者がおられたことから勉強会を行い制度について学ぶ機会を設け、制度の理解を行なっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前は相談員や管理者が説明を行い、契約の締結、解約については十分な時間をかけて説明をし疑問、不安等に対しても相手が納得いくまで行なっている。改定等も同様。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、苦情相談箱を設置して直接話せない内容を把握したり、本人、家族からの要望をカンファレンスや定例会などで話しあい、可能な限り運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会や直接職員から意見及び、提案を受け業務の見直しや、ケアの負担軽減を考えた職場環境を作れるように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当、時間外手当の支給、有給休暇の取得がし易いように配慮したり、希望があれば講演会、研修会への参加や資格取得への支援をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外での研修や講演会への参加が出来るように努め、パソコンで様々な情報が得られ、スキルアップできるように進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県が主催している研修会への参加や、法人内のグループホームの見学や、職員の応援勤務などで交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者が会いに行き、その方の話を聞いたり家族や、相談員、介護スタッフに情報を得て、本人が安心できる環境を整える事ができるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学にきてもらい、施設の概要の説明をご家族の納得いくまで話をする。不安なこと、問題点、要望等の聞き取りをして、その都度、対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談員、計画作成担当者、管理者が情報を共有して可能な限り柔軟な対応をして、場合によっては他の事業所のサービスに繋げることも有る。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の好きな事、得意な事、今の体力で可能な事を見極めて、手伝ってもらったり教えてもらったりしながら共に暮らしているという認識がもてるように工夫している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の菜の花便りで、個別に担当職員が状況を報告する。また家族から連絡がある時など本人と話すようにアシストしたり、家族からの情報の大切さを伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、知人との関係を大切に維持できるように、電話、手紙などで関係の継続を心掛けている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれに応じた関係性が築けるように、入居者同士の関わり方を把握して、孤立したりトラブルに発展しそうな時は職員が間に入り、関係の改善や継続に気を配っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内の医療機関や介護施設の場合は、面会に行くなどして関係の継続に努めている。必要に応じて相談員に情報の提供など間接的にサポートしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	色々な場面で、本人の話や表情などから、希望や意向を把握して、困難な場合は家族より情報提供してもらい本人の希望、意向に近づけるようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人からの話、家族には細かい情報提供を入居者台帳に記入してもらい、入居前の生活歴、生活環境、以前、利用していたサービスの経過等の情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	経過記録にどんな些細なことであっても、本人の喜怒哀楽や健康状態など記録して、職員間で情報の共有を行い、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、かかりつけ医の意見をもとにして、本人の生活の質がより向上するように、アセスメントを行い意見や現状を総合して、ケアプランの作成を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は経過記録に個別に本人の言葉で記録し、普段と違う様子があれば申し送りで伝達し情報の共有を図りながら、計画の実践や見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況や家族の希望に配慮しながら、面会、外泊、法人外の医療機関の受診の付き添い等、柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行政、ボランティア、医療連携、民間等の地域資源を活用して、より快適に安全に生活が営めるようサポートしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望の医療機関の受診に関しての情報提供、また、母体の医療機関をかかりつけ医として往診をうけている。週に1度、訪問看護を受けている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度、訪問看護を受け常に本人の健康管理を行い、状態の変化があった場合は母体の医療機関との連携が速やかにとれる体制が確保されている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院によるADLの低下を極力防ぐため、医師や看護師、PT、と相談して施設で対応可能な段階で退院できる様アプローチしたり、入院の時にはリロケーションダメージを防ぐため食事、排泄等は施設での生活に近い形が取れるよう情報提供している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴う意見確認書を作成して、施設が対応し得るケアについて説明を行っている。状況に応じて再確認をしていく必要性があると思われる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの設置をしており、日勤帯、夜勤帯、土日、祝日など緊急対応についてマニュアルを整備して周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施し、避難経路、避難場所の確認、スプリンクラー消火器の使い方等の訓練を行っている。地域の協力体制は自治会長、民生委員に訓練に参加してもらい、消防団に入居状態を知らせている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の関わり方をリーダーが、点検し対応や発言での気づきを指導して本人のプライド、プライバシーに配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	些細なことでも本人が決定する様に促し、複数の選択肢の提案をして本人の希望を優先している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の本人の状態や思いに配慮しながら柔軟に対応し、出来るだけ個別性のある支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みに応じた支援を行うよう努め、自己決定が難しい方には、本人の気持ちに副った支援を心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	運搬食のため調理を一緒にする機会はすくないが、配膳や片付けを共にして、同じテーブルを囲んで家庭的な雰囲気のもと食事ができるようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による献立の作成。食事摂取量や水分量を把握して、摂取量が減少の場合は、食事形態や栄養補助食品を検討し、本人の好物の提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨きの声掛け、介助をしている。歯科医による定期健診を行い、月に一度、歯科衛生士による勉強会を実施して口腔内の清潔保持のスキルアップに努めている。		

事業者名:グループホーム 菜の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンの把握をして、トイレへの声掛けや介助を行い、1日1回はトイレに座ることを実施している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材や乳製品、水分をより多く摂れるように緑茶だけでなく、数種類準備している。身体を動かす機会を設けて、自然に排便が出来るよう予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴はゆっくり落ち着いて楽しんでもらえる様に時間をとり、2日に一度の入浴としている。介助が必要な方用の簡易リフト、入浴介助用の車椅子など安全にも努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	できる限り日中の活動を促して睡眠のリズムを整え、体調や表情などで昼寝を勧めたり、身体の疲れが1日を通して、解消できるように夜間は空調、照明、音などに考慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のリストを全職員が把握出来るようにしている。受診、往診の際に薬の変更があった場合、本人に症状の変化があれば記録して、医療機関へ報告を行い指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	何気ない会話の中より、本人の好む事を導きだして、得意な分野で張り合いや喜びを感じられるように、役割や楽しみごとを提供して暮らしの質を高められるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染防止のため戸外に出かける(遠方)事は困難であったが、感染者数が減少した時期に施設の周辺を散歩したり、年末はPCR検査を条件として、本人、家族の希望で外泊する入居者もおられた。		

事業者名:グループホーム 菜の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額のお金を自分で管理している方もおられ、希望されれば最寄りのコンビニに買い物に出かける。(今は職員が行っている。)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば家族に電話をかけたり、家族からの電話を取り次いだりしている。手紙を書いたり、読んだりするのが困難な方は、希望に応じ手伝っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同の空間は清潔に保ち、家庭的な雰囲気大切にしている。場所が認識出来ない方のため、トイレ、風呂場、居室出入口に案内の表札を掲げ混乱を防いでいる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関にベンチを置いたり、テレビの好きな方は静かに観れるよう近い位置に席を設けたり、窓側のソファは仲の良い人同士でくつろいだり、おしゃべりを楽しんだり出来るように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具やタンスはなるべく自宅で使用していた物を持ち込んでいただき、使いかっの良さ、安心感を感じてもらえる様工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	何がわからないのか、何が出来ないのかどの様にしたら本人の力でやってもらえるかを追及して環境整備につとめている。		